5 bars

文・写真：苅谷 伊

低賃金でも職人のプライドを失わない 仕事熱心なアジア諸国の職人たち

前号に引き続き、日本と世界各地のおおまかな賃金を比べていきたいと思います。第２弾は、日本以外のアジア市場についてです。

2019 年 9 月に行われたインドネシアラッピングコンテストでのバイクラッピング

腕を競う若いラッパー達（2019 年 9 月インドネシア）

中国・上海の綺麗なフルラップ車両（2017 年 5 月）

質より量を求める東南アジアの職人たち

まずは、東南アジア圏であるインドネシア、マレーシア、フィリピンの賃金事情について見ていきましょう。これらの国の貼り施工職人は、その半数近くが 30 歳以下で構成されています。職人に限らず、とにかく街中に若者が多い。その数も非常に多く、ほとんどはフリーランスです。

そのため、薄利多売になりがちという特徴があります。日本の同世代と比べて約半分から 1/3 の月給が一般的で、貼り単価においてはもっと安いです。具体的な数値だと、50cc程度のバイクをフルラッピングし、材料込みで 5 千円くらいが相場になります。もし日本で同様の貼り施工を行った場合、最低 5 万円は見るべきでしょう。

ここで、疑問が生じます。仮に月給が日本の 1/3 として、受注単価が 1/10 ならば計算が合いません。一体どういうことでしょうか？ 答えは簡単。１カ月の仕事量が日本よりも多いのです。日本のクライアントは、求めるクオリティが高く、１台ずつに時間をかけなければいけません。一方で、例えばインドネシアでは、それなりにきれいな仕上がりであれば問題なく、より低コストを求める傾向が強いのです。１台のバイクで考えると、日本は２日かけるのに対し、インドネシアでは半日程度。言い方は悪いですが、質より量をこなして、利益に結びつけています。日本に比べて需要も多く、市場も活発。今後の経済成長にも大きな期待が持たれている地域です。

問題点を挙げるとすれば、彼らには世界の一流技術を学ぶ場所がありません。基本的には独学で仕事をしています。我流が悪いわけではありません。しかし、日進月歩で発展し続けているラッピングの情報を得られる術を持っていないのは、今後の技術向上に一抹の不安が感じられます。もしも、正しい技術を学べる土壌さえあれば、さらにスピード、施工力を向上させ、今以上に単価を伸ばしていくでしょう。日本の賃金に近づけるかどうかは、今後の経済発展に期待といったところでしょうか。

先述した国と比べ、経済が発展しているタイやシンガポールについても、ほぼ同じです。大きな違いは、年齢層や就業形態。30 歳以下の人口比率は 34 ～ 37%で、ラッピング職人はフリーランスだけでなく、数名の小規模な会社で構成されています。

若干の少子高齢化が見受けられ、日本により近い環境です。街中を見渡すと、洗礼された看板やラッピングがあちこちに散見しています。しかし技術面においては、やはり正しい施工を教えられる職人が著しく少なく、高いクオリティーは期待できません。なかには、技術を持つ職人もいますが、彼らが手がける高級店のサインや高級車のラッピングのほとんどは、都市部に掲出されるもの。地方ではより安い賃金で取引されるケースも多々あり、その差は日本より大きいと言われています。

真摯な姿勢で技術高める中国の職人たち

次に急激な経済成長を遂げた、中国を見てみましょう。１人っ子政策の影響により若手が少ないのが特徴で、30 歳以下の割合は 38%程度です。

金銭面では、中心地である北京・上海の職人であっても、東南アジアとあまり変わらない給料で雇われているというのが現状です。その要因は、ラッピング企業のオーナーのほとんどが、独立した元職人だからです。これまでの人脈を使って、物価の安い地方都市から 10 ～ 20 代の働き手を集めて、低賃金で雇っています。また、競合他社との値段競争で利益自体が少ないという問題点もあります。

では、技術力はどうでしょうか。中国の人口は単純に日本の 13 倍あり、その分市場も広いので、人気店は毎日たくさんの仕事をこなさなければなりません。オーナーになった起業者は、貼りの仕事のほとんどを部下の職人に任せ、営業に徹するという傾向が強いそうです。そのなかで働く若い職人たちは、当然たくさんの経験を積む機会があるので、他の国より優れたノウハウを得られます。これまで、北京、上海で数多くの職人を見てきましたが、皆高い技術を持つ人ばかりでした。

驚かされたのは、彼らの真面目さと研究熱心さ。ほかの東南アジア諸国と同様、技術に関する情報に乏しいなか、日々の数をこなし、技術を高めています。仕事量はもちろん、日本と同じように、クオリティーを求める富裕層も多いのだとか。それが一層の技術向上に役立っているそうです。賃金は安くても、技術に自信のある職人が多い。そんな印象があるのが、中国市場です。クライアントと真摯に向き合い、職人が一人前に育っていく。それを肌で感じました。

今回は、日本とも共通点の多いアジア圏の市場について紹介しました。次回は、ラッピングの本場とも言える地域のひとつ、ヨーロッパ市場について考察していきたいと思います。

SAMURAI WRAPPER

フルラッピングバイク（2019 年 9 月インドネシア）

苅谷 伊
（かりや　ただし）

1969 年 2 月 3 日生まれ。
89 年大学中退後、父の看板業を手伝い始める。07 年より、カーラッピング専門の PPF 事業部を立ち上げ、車体装飾に注力。日本カーラッピング協会の会長も務める。現在は、数々の世界的ラッピングコンテストで受賞を果たす傍ら、世界各地で車体装飾のデモンストレーションを実施するなどトレーナーとして活躍。各国におけるサイン製作の現場も積極的に視察し、業界の発展に寄与する活動を続ける。

主なラッピングコンテスト

2017 年（アメリカ・ラスベガス）
SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE
2 位

2018 年（ドイツ・ベルリン）
FESPA WRLD WRAP MASTERS
4 位

2018 年（アメリカ・ロングビーチ）
WRAP OLYMPICS
優勝

2018 年（アメリカ・ラスベガス）
SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE
3 位

2019 年（ドイツ・ミュンヘン）
World Wrap Masters Europe
8 位

2019 年（アメリカ・ロングビーチ）
WRAP OLYMPICS
準優勝

SNS

フェイスブック（苅谷 伊）
Instagram　@designlab.inc.wrap_japan
Twitter　@tadashikariya

株式会社デザインラボ　PPF 事業部

〒 501-6023
岐阜県各務原市川島小網町 2150-24
TEL/FAX：0586-89-2332

〒 243-0021
神奈川県厚木市岡田 3122 apr サービスセンター内
TEL：046-258-6531　FAX：046-228-7636